※令和４年度以降入学生用

学校番号	1207

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	２年次
使用教科書	新　高校の数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	新　高校の数学Ⅰ対応　教科書学習ノート数学Ⅰ　（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１年生で学びなおした知識を活かし、数学Ⅰを学習する。計算方法を理解し、様々な問題できちんと使うことが出来るようになることが目的です。数学に対しての苦手意識をもっている生徒や、説明を長く聞くことが出来ない生徒が多いのが本校の特徴です。習熟度別にクラスを分けて、生徒の実力を見極めたうえで各クラスにあった授業を展開し生徒の実力を伸ばしていく。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することをめざす。
・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・原則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり。数学的に表現・処理する技能を身につけるようにする。
・数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し、表現する力等を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な思考力や判断力を身に付けている。	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	数と式の計算	・多項式の計算 ・式の展開 ・因数分解	a:無理数、乗法公式及び因数分解の公式を理解している。 b:既に学習した計算の方法を関連づけて適切に変形ができる。 c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ノート等提出物 観察
	1次不等式・2次関数	・方程式と不等式 ・2次関数のグラフ	a: ：様々な２次関数の式とグラフの位置関係を調べることが出来る。 b: ２次関数とそのグラフについて感心をもち、それらを２次関数の考察に活用しようとしている。 c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ノート等提出物 観察
	２次関数	・2次関数の最大、最小 ・2次方程式 ・2次不等式	a: ２次方程式、２次不等式に関心を持ち、解を求めることができる。 b: ：様々な２次関数のグラフを変形し頂点や軸、最大や最小値を見極めることが出来る。 c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ノート等提出物 観察
後期	図形と計量	・三角比	a: 正弦、余弦、正接を直角三角形の辺の比と角の関係として理解している。 b直角三角形を用いて考えられる計量の問題を、三角比の記号を用いて表現し処理できる。： c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ノート等提出物 観察
	図形と計量	・三角比の応用	a: 正弦定理、余弦定理、三角形の面積を公式を用い求めることが出来る。 b: 鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。 c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ノート等提出物 観察

※令和４年度以降入学生用

	データの分析	・データの整理 ・データの代表値 ・データの散らばり ・データの相関	a:データの分析に必要な用語やその内容を理解し、求めることがでいる。 b: 分散、標準偏差について理解、相関係数についても理解し、データ分析に活用する。 c: 学習した内容を様々な場面で活用しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査	ノート等提出物 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度